

② 狭窄部の崖地

中流域的那珂川は、栃木県那須烏山市～茂木町にかけて丘陵地を流下しており、河岸まで丘陵地が迫る崖地になっている。このような崖地には、常に水が浸み出ており、春になると湿った崖を好むタヌキランが各所で目につく。また、ユキヤナギの白い花やタチツボスミレが崖地の春を彩る。

川沿いの斜面には、スギ・ヒノキ植林のほか、マダケ林、シラカシ林、クヌギ林が見られる。このような山林が接する区域ではヤマセミ、カワセミが生息し、崖に穴を掘って営巣する。秋になると餌を求めて山地からコガラ、ヒガラ、カケス、アカゲラ等が移動してくる。また、ベニマシコ、マヒワ、カシラダカ等の冬鳥が大群を作って移動する姿が見られる。



早春の那珂川の崖地（茂木町 4月）



湿った崖地に生えるタヌキラン
（那須烏山市 4月）



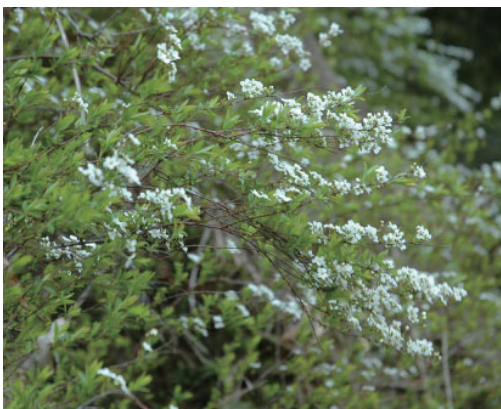
図 4-33 中流域の崖地環境



ヤマセミ (カワセミ科)

(写真：小堀政一郎氏)

溪流や湖沼に棲息し、ヤマメやウグイなどの魚を主食とする。水面上空でホバリングをして、そのまま水中へダイビングすることもある。



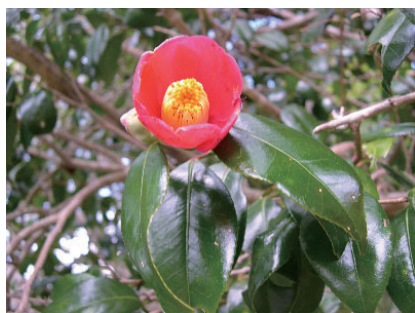
崖地に自生するユキヤナギ (バラ科)



タチツボスミレ (スミレ科)

図 4-34 中流域の崖地の生物

鷺子山塊^{とりのこさんかい}の南側を南東に流れる那珂川の狭窄部付近は、暖温帯林の北限に近く、冷温帯林との境界になっている。暖温帯を代表する照葉樹林として、シラカシ、アラカシ、ウラジロガシ、ヤブツバキ、ヒサカキ、シロダモなどの植物が見られる。



ヤブツバキ (ツバキ科)

(写真：榎日水コン)



シロダモ (クスノキ科)

(写真：榎日水コン)



アラカシ (ブナ科)

(写真：榎日水コン)

図 4-35 照葉樹林の植物